

めざせ花園！



ALL FOR ONE

みんなは、一人のために、一人は、みんなのために

ONE FOR ALL

大阪府立 八尾 高等学校

ラグビー部 No. 45

2007 (平成 19) 年 10 月 9 日

# 敗北から新たなスタート！

全国大会府予選 初戦敗退で考えたこと

小林 孝二

いつまでも敗戦のショックにこだわってもいられない。少しでも早く気持ちを切り替えて、次のチーム作りへと前向きに考えなくてはならない。今年の敗戦は、確かに私にとって大きな教訓を残してくれたと思う。ひとつでも多く試合に勝つことは選手の自信につながるが、指導者にとって、これまでとってきたやり方が果たして正しかったかどうかにもつながってくる。同じやり方に取り組んでいては、後退はあっても進歩はない。練習の内容とか密度というものは、そう大きく変わるわけではない。また、新しいよりよい指導を求めて勉強する姿勢は失ってはいない。それ以上に難しいのは、チームをどう調整していくかだろう。非常に抽象的なテーマだが、この問題は私にとって何か避けられないような重要な感じがする。もう一度原点に戻って見つめ直す時期なのだろう。すべてに対してこれでいいというのがないのが勝負の世界。これからも自分を磨いていくことによって、よりよいチーム作りを目指す闘志だけは失っていないつもりだ。

チームプレーの原則 (コミュニケーション)



新チームの最重点課題

## ① コーリング・ヒヤリングの重要性 (コミュニケーション)

ボールを効果的に前進させていくためには、さまざまなボール継続の方法が選択される。ボール保持者が選択した継続の方法がすべて正しいとは限らない、また、相手の抵抗によって頭で判断した方法と動作が一致できないこともある。

ボールをよりよく継続するためには、良いサポートが必要であることは言うまでもない。そのためには、ボール保持者が判断して次に行おうとするプレーの情報をプレーヤーに伝えることが最も重要である。また、ボール保持者よりも、周囲のサポートプレーヤーから、ボール保持者に向かってどのようにサポートするか伝えることも多い。

## ② ハンドリングスキルの中でのコーリング・ヒヤリング

ハンドリングスキルの中では、レシーバーのコーリング (近い・遠い・深い・浅いなど)、ランニングスキル中では、サポートプレーヤーの状況を伝えるコーリング、キッキングにおいては目の状況知らせるコーリング等が特に重要である。

## ③ コンタクトスキルの中でのコーリング・ヒヤリング

コミュニケーションが場面の变化の激しいコンタクトプレーの前後に的確に行われることがチームプレーを成功させる基になる。すなわち、ボール保持者が相手のタックルにあおうとしているとき、ボールの継続をどのような方法で行うかと言うことが、そのゲームを決定する大きな要因となる。そして、ボールの継続方法の決定を、ボール保持者が行うのか、サポートプレーヤーが行うのか、その関係が明確になるのがコミュニケーションである。

## ④ その他のコーリング・ヒヤリング

コーリング・ヒヤリングのコミュニケーションにおいて最も見落とさせることが多い部分は、相手の状況の情報や、目の他のプレーヤーが見えないところの情報の伝達である。例えば、相手のFBの動きや位置をうまく伝えたことにより有効なキックになり、地域を大きく挽回できることも多い。